２０２４（R6）年 天濃池ビオトープの会「夏の活動」報告

報告　野口　隆司

◆日　時　　2024（R6）年９月２日(月)　11 時２０分～１４時４０分

◆参加者　　精華高校３年７組環境福祉コース(２０名)　引率先生２名

天濃池ビオトープの会：麻生、田中伸彦、垣井、野口

■活動概要

恒例の精華高校の生徒達との天濃池ビオトープの協働活動。同高校の先生が天濃池のビオトープづくりに会員として参加された縁で１５年近く前から当地を同校の課外実習の場とされた。実習日程のうち夏・秋の２回は本会との協働活動となっている。

集合時刻の午前１１時過ぎ、池のパーゴラ付近で待っていると精華高校の生徒達の声が池のアプローチ坂道から聞こえる。

早速生徒たちはフジやアケビの葉で覆われたパーゴラの日陰へ移動。パーゴラにはまだ熟していないアケビの実が多数観られ、秋の近づきが感じられたが今年の夏は特に暑く、熱中症に気を付けながらの活動となる。

本会メンバーの紹介の後、麻生さんから生徒達に天濃池のビオトープの概要や特徴、ビオトープの維持や保全について写真などのパネルを使って話をされた。

その後、生徒たちは２組に分かれ、アプローチ坂道と本堤等の草刈り作業グループと池の岸辺に生息する外来生物の駆除作業をするグループに分かれた。昼食を挟みながら各々の作業を交代する。

草刈り作業グループは炎天下の中、カマで草を刈り取り土手に集めて積み上げる。また、本会メンバーで希少種の植物を避けながら草刈機で池の奥の岸辺の草刈りも行った。

外来生物駆除グループは馴れない胴長靴を履くのに四苦八苦しながら池の中へ入って行く。膝下への水圧の圧迫感に気持ちいいと言いながら、足を踏みながら岸辺に潜む外来生物を網に追い込んでいく。昨年はウシガエルのオタマジャクシやアメリカザリガニを捕獲できたが、今年はブルーギルの稚魚が網に入るのみで外来生物の捕獲に違いが観られた。

生徒の一人が池の余水吐けで土手の土の中にいるミミズを餌にブルーギル釣りにチャレンジすると、体長が２０cm 以上の大きなブルーギルが矢継ぎ早に釣れる。もしかしたらブルーギルがアメリカザリガニやウシガエルのオタマジャクシなどを餌にして増えてきて池の生物相に変化が表れているのかもしれない。

最後に本堤に浅い穴を掘り、皆で合掌して捕獲したブルーギルを駆除し、無事に３時間余りのビオトープの管理作業を終えた。

麻生さんのビオトープ講義の風景

パーゴラの木陰で講義を聴く生徒達

胴長靴を履いて池の浅瀬に潜む外来生物の捕獲作業の様子

釣り竿で大きなブルーギルをゲット

捕獲した外来生物を土に埋めて駆除